

「永遠に終わることがない」

先週の火曜日、私は名古屋市のだ真ん中にある、名古屋中央教会に行きました。名古屋駅から地下鉄東西線に乗って二駅の「栄」というところで降りて、5 番出口から出ると左手すぐにある教会です。周りは商業ビルが立ち並ぶビジネス街で、生活感はあまり見えてこない都会的なところですが、そこに、ドカンと立派な教会が建っている。初めて訪れた時は、大きく見上げたものです。

で、先日、なぜ名古屋中央教会を訪ねたのかと言いますと、准允式と按手礼式が行われるからでした。准允式と言うのは、日本基督教団の定める教師制度において、補教師になるための儀式です。按手礼式は、正教師になるための儀式ですね。補教師になるための准允式は、司式者による勧告と志願者による誓約のみのシンプルな形式です。一方で、正教師になるための按手礼式は、勧告と誓約に加えて、その場に参列している全ての正教師が、志願者に手を置き、祈りを合わせるという特別な所作があります。その時、名古屋中央教会に集まっていた正教師、つまり牧師は 30 人くらい。その全員が、志願者の周りを取り囲み、志願者の頭や肩に手を置きます。と言っても、その人数だと全員が志望者に手が届くわけではないので、後ろの人たちは前の人たちの方や背中に手を置いて、間接的に、気持ち的に繋がるよう試みます。私も、その人だかりの末端で、前の人背中に手を置きつつ、一緒に祈りました。

ただ、ハッキリ言って、その様子とは、一種異様なものかも知れません。だいたい牧師たちは黒っぽいスーツを着ていますから、そんな出で立ちの 30 名が一人を囲んで、人だかりを作っている。迫力があると言えば、そうだし、でも、違和感が凄いと言えば、確かに否定はできません。日頃は決してお目にかかれない、非日常的な光景であると言えるでしょう。

と同時に、こんなことも思います。この珍しい光景と言うのは、キリストの使徒たちが活躍していた時から、ずっと続いているんだろうな、と。具体的に言えば、使徒言行録に登場するパウロさんや、バルナバさん達が活躍していた時ですね。その時から、時代は違えど、国は違えど、神様に選び出された人に手を置いて、特別な祝福を祈り、その教職者、牧師、牧会者としての系譜を連綿と繋いできた。その歴史の先っぽで、先週の火曜日も、新しい牧師が誕生したのかと思うと、やっぱり感慨深いものがあります。

と言うところまで、考えて、一人で勝手に感傷に浸っていたところ、「でも、待てよ」と気付いま

した。と言うのは、そもそも按手礼式が、どうこう言う前に、牧師もそして信徒の皆さまも、みんな洗礼を受けてキリスト者になったわけで、その洗礼の営みと言うのは、それこそパウロさんよりもさらに古く、イエス様や洗礼者ヨハネさんの時代にまで遡るわけですね。これも、想像してみると、なかなか感動的で、私たちが受け取った洗礼と言うのは、約 2000 年間、途切れることなく、教師から信徒へ、そして、信徒が教師となって、さらに新たな世代の信徒へと繋いできて、今日に至るわけです。私個人にとって、洗礼は人生一度きりの出来事です。けれど、私に届くまでに、その洗礼の営みは、何度も何度も繰り返され、2000 年の厚みをもって今日の、この敦賀教会と私たちを形作っている。そう思うと、聖書に書かれている大昔の出来事も、今の自分に繋がる、自分事のように感じられるかも知れません。

ごめんなさい、前置きが長くなりました。今日は、その「繋がり」ということを念頭に置きながら、ちょっとお話ししたいと思います。果たして、私たちの歴史は、これから何年先まで、アドベントとクリスマスをお祝いし続けるのでしょうか。2000 年に及ぶ「御子の御降誕を喜ぶ」という世代を超えた繋がりとは、あと何世代、続いていくのでしょうか。そんな未来に向けた想像力も発揮しながら、今日の聖書箇所を読んでみたいと思います。

もう、クリスマスのお話なんて、何度も聴いた、という方が多いのは知っています。私も、何度も話していて、そろそろネタも尽きそうです。そのあたり先輩牧師たちの偉大さを思います。イエス様のお母さんになった、おとめマリアさん。一説によれば、今回の天使ガブリエルによる受胎告知、イエス様を身籠ることを伝える言葉を受け取った時、マリアさんは 15 歳前後であったと言われています。まさに「おとめ」なわけです。その年齢に関する現代的な意味付けについては、今日は触れません。ただ、イエス様ご自身も赤ちゃんとして、この世にお生まれになったこと。幼子の姿で天から降りて来られたことと合わせて、うら若きおとめに神様の御子が委ねられたことの意義を、ちょっと考えてみたいと思います。聖書には、古くはアブラハムとサラのように年老いてから子どもを得られた特別な夫婦もあれば、長く不妊の女として悩んだ末に、天使のお告げを聞いて、大士師サムソンを産んだ名も無き女性も登場します。ようするに、聖書には、様々な境遇、葛藤の中で子を得た幸いな女性は、他にもいるわけです。そんな女性たちがいる中で、「おとめ」である若い女性のところに、赤ちゃんイエス様が与えられた、というのは、やっぱり特別なメッセージがありそうな気がするんですね。クリスマスの出来事には、一つ「若さ」というキーワードがあるんじゃないでしょうか。

御子御降誕の出来事は、若さを未熟ではなく、特別な祝福の受け皿として捉え、そして、その若さの中に、さらに小さな幼子という命を宿らせた。青々とした枝葉の中に、小さな蠟燭の火が点る、このアドベント・クランツのような情景が、そこにはあります。イエス様がお生まれになったことを「新しき世の始まり」と言ったりもしますが、確かにそれは、古き世を礎としつつ、まだ見ぬ未来に想いを馳せる、という信仰があったように思います。そのイメージは、まさに倒された切り株から芽を出す「ひこばえ」のようでもあります。「ひこばえ」そのものも尊いですが、その土台となり、基礎となっている切り株も大切です。

クリスマスにおけるマリアさんの若さ、イエス様の幼さを思う時、今年のアドベントの期間も伝統あるキリスト教から、歴史ある教会から、新たな「ひこばえ」が芽生えているのだろうな、と私は想像します。それは目に見えたり、手で触れられたりする類の「ひこばえ」ではないでしょう。クリスマス礼拝で洗礼式があると、少し「ひこばえ」感を味わうことはできるかも知れませんが、でも、そういう分かり易い喜びの出来事がなくても、神様はクリスマスの度に、新たな祝福を送り、私たちの心と目を上向かせ、新しき世に向けた備えを促してくださいます。

今日の説教題は、33 節の御言葉から取りました。「彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることはない」。「永遠」という言葉、「終わることがない」という確信。なかなか日常生活において思い及ばせることのない事柄かと思います。でも、アドベント、クリスマスには、私たちの目先のことに囚われがちな思いを、未来に向けさせる力があります。過去、連綿と続いてきた洗礼の儀式、按手礼の儀式、そして、その最先端で信仰を守り受け継ぐ私たち。その私たちが、たとえ青々とした枝葉を茂らせることができなくても、澆刺と宣教の業に取り組むことができずとも、私たちから芽生える「ひこばえ」があることを信じていたいと思います。「永遠に終わることがない」神様の恵みとイエス様の力強い御守りがあるのだと確信して。ドシッと構えた教会に、新しい青葉が増し加えられる未来があると想像して。私たちは、祈り、賛美し、今年も今年で、クリスマスの喜びを少しでも伝えられるように。一人でも多くの人が孤独なクリスマスを迎えなくても良いように。ちょっとだけでもほっこりするクリスマスとなるように。無理せず、楽しく、元気よく。アドベントを過ごして参りましょう。お祈りを致します。

神様。今日も、私たちをこの礼拝堂に招いてくださり、感謝致します。本日、2 回目のアドベント礼拝をお捧げしています。おとめマリアの、その大いなる献身の姿を思う時、私たちは大きな励ましを頂くと同時に、また自らの至らなさに気付かされます。うら若きマリアに幼子イエス・キリ

ストを宿らせたあなたの御心に尋ね求めつつ、私たちも次の世代に向けて、また、未来にわたって永遠に終わることがない主の御支配を信じて、今週も日々の信仰の歩みをなすことができますように、お守りお導きください。クリスマスの喜びを、より多くの人たちに宣べ伝えることができますように。お支え、励ましてください。

このお祈りを我らの救い主イエス・キリストの御名によって、あなたの御前にお捧げ致します。

12月誕生者の祝福祈祷

聖書：イザヤ書 46 章 3～4 節

あなたたちは生まれた時から負われ／胎を出た時から担われてきた。同じように、わたしはあなたたちの老いる日まで／白髪になるまで、背負って行こう。わたしはあなたたちを造った。わたしが担い、背負い、救い出す。

吉谷和子	よしたに	かずこ（2日）	上田光子	うえだ	みつこ（6日）
千葉明子	ちば	あきこ（9日）	澤崎愛子	さわざき	あいこ（13日）
松浦知恵	まつうら	ちえ（20日）	糀谷昌美	こうじたに	まさみ（25日）
橋本聖哉	はしもと	せいや（25日）			

神様。私たちは、主のお生まれを祝うこの12月に、あなたによって尊い命を与えられ、また、私たちの友となってくれた12月誕生者の方々を憶えて祈りを合わせています。今、ここにお立ちになっている方々の人生を振り返れば、山があり谷があり、そういう道を歩んで来られただろうと思います。しかし、その深みにある時も、また、その頂きにある時も、いつもあなたが隣にいて、支え導いてくださったのだと信じます。それぞれの誕生の日から始まる新しい1年間も、どうかあなたが傍にいて、その喜怒哀楽に寄り添い、時に応じた相応しい御業を示してください。あなたに連なる人生に、大きな喜びと幸いを、どうかお与えください。また、人は一人で生きるものではなく、12月誕生者の方々の周りにも、大切な家族、友人、同僚がいることと思います。どうか、その人と人が繋がる、尊い和の中に、あなたもいてくださり、繋がり合う多くの人たちの上にも恵みと祝福を置いてください。神様と多くの人々に愛されて、これからも歩んでゆくことが出来ますように。

このお祈りを、我らの主イエス・キリストの御名によって、あなたの御前にお捧げ致します。